

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<u>合計</u>	<u>30</u>

事業所番号	2370400869
法人名	株式会社エイム
事業所名	グループホーム 清里
訪問調査日	平成20年4月21日
評価確定日	平成20年5月23日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年5月26日

【評価実施概要】

事業所番号	2370400869
法人名	株式会社エイム
事業所名	グループホーム 清里
所在地	名古屋市西区砂原町418番地 (電話) 052-503-6131

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成20年4月21日	評価確定日	平成20年5月23日

【情報提供票より】(平成20年3月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 (平成) 15年8月1日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 27 人
職員数	46 人 常勤 20人, 非常勤 26人, 常勤換算 7.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	4 階建ての 2~4 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,600~32,400 円	その他の経費(月額)	47,700 円	
敷金	(有) 100,000 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 200,000 円 無	有りの場合 償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	280 円	昼食	490 円
	夕食	490 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		1,260 円	

(4) 利用者の概要(平成20年3月27日現在)

利用者人数	27 名	男性	5 名	女性	22 名
要介護1	4名	要介護2	4名		
要介護3	12名	要介護4	3名		
要介護5	4名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.2 歳	最低	76 歳	最高	99 歳
協力医療機関名	新道内科クリニック				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「アットホームな介護」を理念に掲げホームでの生活は、大家族で暖かな雰囲気の中で暮らす事を目指し、目に付きやすい所に理念と重要事項説明書を掲示している。職員は常に理念を念頭において、介護サービスに取り組んでいる。ホームは住宅地域に設立され、4階建てで2階から4階の3ユニットになっている。職員の中にはケアマネジャーあるいは看護師、介護福祉士などの資格を持っている人もおり、質、量ともに、ゆとりを持ちケアに取り組むことができ、個別ケアにも対応可能な体制となっている。職員は日々のサービスの中で入居者の要望、思い、変化を把握し申し送りノートなどに記載して、新たな情報の共有化に取り組み、現状に即したケアに努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題について運営理念、重要事項などの内容が職員全員に分かりやすく、より具体的にケアに取り組むことができるよう、説明が改められている。また、入居者の権利擁護について、契約書及び重要事項説明書に明示されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果を職員全員で共有し、サービスの質の向上に活かそうと積極的に取り組んでいる。職員一人ひとりが自己評価を行うことによって、自己の介護サービスのスキルアップと意識の啓発につながり、職員同士が話し合う機会になっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2カ月毎に開催され、メンバーは自治会長、民生委員、家族代表、入居者代表、管理者、職員で構成されている。会議は運営理念を始めホームの役割、活動方針及び認知症などの説明をしている。メンバーからの助言、提案をホームの運営に反映させている。また、必要な時には行政からのアドバイスをいただいている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会は組織されていないが、ホームの行事には家族も参加している。入居者の年齢層が高く、介護度も比較的重度の人が多く、家族や本人共に看取り希望が多いため、家族の意向や希望の把握に努めている。医療機関との連携を密にしつつ、日々のケアに取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し回覧板もあり地域の情報を得て、行事に参加している。近くの保育園との相互訪問をして交流したり、向かいの公園へ天候の良い日は、ほぼ毎日散歩に出かけごみ拾いをしている。その際、地域の人達と話をすることがある。ボランティアの訪問があり、入居者が楽しみにしている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が家庭的で楽しい生活を送れるようにと、「アットホームな介護」を理念としている。理念と重要事項説明書を玄関に掲示すると共に、事務室や職員の休憩室の見やすい所にも掲示しており、大家族で暖かいホームを目指していることが感じられる。管理者は地域密着型サービスについて、理解しているので理念に掲げる事に期待したい。		これまでの理念に加え、地域密着型サービスについて、その内容を理念に取り入れることを期待したい。また、行政および自治会などにホームの運営方針や実態に理解を得ることができるよう積極的な情報を提供するなど取り組みに期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の申し送りで理念を唱和したり、毎月のミーティングでも、職員全員で理念の確認と共有をし、意識の向上に努めている。職員は理念をもとに、「ホームは入居者にとって家庭であり、職員は家族である」という意識を持ち、入居者それぞれに合ったケアを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会には加入し回覧板もあり、地域の情報も入り行事には積極的に参加している。近隣の保育園の運動会に参加したり、園児の訪問があり、ふれあいを楽しんでいる。また、ボランティアの訪問が毎月あり、入居者は楽しみにしている。散歩の途中で地域住民と話をする関係もできており、近くの公園のゴミ拾いをするなど、少しでも地域のために役立つと、努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価をサービスの質の向上に活かそうと、積極的に取り組んでいる。自己評価は職員各自が実施し、各フロア毎に話し合い、チーフがまとめ、全体を管理者がとりまとめている。文字にすることで気づくことが多く、職員にとって良い意識改革になっている。前回の改善課題について管理者と職員は一緒に、優先順位をつけて改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>メンバーは自治会長、民生委員、家族代表、入居者代表、管理者、職員で構成され、2カ月毎に開催している。また、次回より消防団長の参加が予定されている。運営推進会議ではホームの活動状況や行事予定、外部評価の報告などを行い、協力を得て運営に反映させている。会議の結果資料などは、玄関ホールに掲示しているが、メンバーへの配布には至っていない。</p>		<p>運営推進会議の結果報告を掲示するだけでなく、各方面に配布や送付することにより、地域密着型サービスやグループホーム、認知症に対する理解を得る取り組みに期待したい。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>行政への積極的な情報提供は行っていないが、運営推進会議の議題など、必要な時に市の担当者から適切なアドバイスを受けている。現在、成年後見人制度の利用者はいないが、今後の利用時を考慮して、地域包括支援センターとの連携を考えている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>3カ月に1回「ホームからのお知らせ」を担当者、チーフで作成して家族に送付している。内容は入居者の暮らしぶりや健康状態、ホームの活動、行事予定、写真など可能な限りの情報提供に努めている。また、家族の来訪時には必ず職員や管理者が対応し、意見、要望などを聞いている。お小遣いの管理は、個々の能力に合わせて支援しており、自己管理している人もいれば、ホームで預かり管理している人もいる。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会はないが、お花見や盆踊り、遠足などホームの行事には入居者と家族が参加し、交流の場となっている。入居者の年齢層が高く、介護度も比較的重度の人が多く、行事の参加も限られている。また、運営推進会議での意見が少なく、家族会の設立状況にはない。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員は各階毎に決められているが、法人内の異動はある。職員の異動、退職は、運営推進会議や家族が来訪した時に知らせている。今後は「ホームからのお知らせ」を利用して、職員の異動などを家族に知らせたいと考えている。新しい職員は、先輩職員と一緒につき、入居者にダメージを与えないよう配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	区内の事業所(6カ所)合同で講師を招き、管理者、職員が参加して、毎月研修会を行っている。また、市主催の研修会には毎回参加しており、その他にバリデーション研修に参加している人もいる。受講者は報告書を作成して、ミーティング時に報告し、資料を回覧して全員で情報を共有している。管理者は、研修会や資格試験の情報を職員に提供し、勤務に配慮するなどして職員の介護サービスの質の向上に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月行われている研修会に管理者および職員が参加して、他グループホームとの交流を通じて、情報交換や介護サービスの質の向上に繋げようと取り組んでいる。また、区内のグループホームの訪問交流会が行われ、入居者と職員が参加してお互いのサービスの状況を確認し、今後に活かす努力がされている。		
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	お試し入居は、1週間位は可能であるが、実際には早期の入居希望者が多く、早く馴染んでもらうため家族にセンター方式シートを記入してもらい、ミーティングで話し合いを行い、職員の意見や気づいたことなどを介護計画に反映させ、馴染みの関係づくりに取り組んでいる。また、入院や入所をしている人には、ホームから訪問し面接を行っており、家族には必ずホームを見学してもらい、少しでも安心して入居できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者の家族であるという考えで、年長者として接し、本人の性格や生活歴を理解している。日々の変化を見逃すことの無いよう努め、少しの変化も申し送りノートなどに記載している。管理者は、各フロアのチーフがまとめたノートを整理して、職員全員に回覧し情報の共有化に努めている。また、入居者の体調に合わせて、できることはリハビリを兼ねて一緒に行なうようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメントには、家族や本人の協力を得てセンター方式を利用し、生活の記録、日々の変化、気がついたことを記入し、常に新しい情報を職員全体で共有するよう努めている。入浴時の何気ない会話、日常生活の中での表情態度など、入居者の希望、要望を把握するよう、じっくり時間をかけ接している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族の意向を基本とし、定期的なミーティングで入居者がいつも快適な生活ができるように職員で話し合い、計画作成担当者が取りまとめ、それぞれの意見や気づきを反映した介護計画を作成している。職員が介護記録を記入する時に目につきやすく、よく分かるようにその時点でのサービス目標が、介護記録のファイル表紙裏に大きな字で書いて貼っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは、月に1回のミーティングで話し合い、3カ月に1回モニタリングを行っている。6カ月に1度職員がセンター方式のシート3枚を記入し、サービス担当者会議を行い、計画作成担当者がまとめ、通常は6カ月に1回見直しをしている。状態が変化した時は、その都度ミーティングやケアカンファレンスを行い、見直している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>一人ひとりの希望にできるだけ添えるように、買い物、散歩などの外出を個別ケアで支援している。希望者を対象に週3回訪問リハビリがあり、6名の入居者が居室でマッサージを受けている。また、訪問美容室が月に1回あり、カット、カラー、顔剃りなどおしゃれを楽しんでいる。病院への通院は月に2回までは無料で行い、それ以上は有料で支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関の他に、本人や家族が希望するかかりつけ医でも受診することができる。かかりつけ医に家族が同行した時は、受診結果の報告を家族から受けている。月に2回協力医（内科）の往診があり、健康管理を行っている。契約時に夜間における緊急時の対応などの連携、支援体制についての説明も行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「グループホーム清里における終末期生活のための契約書」を作成して、希望を記入してもらっている。状態の変化があるごとに、家族の気持ちや本人の思いなど、重度化、終末期に向けた方針の確認を行っている。その人らしい生活の中で、終末を迎えてもらいたいと願い、家族、医療機関、現場で支える職員の努力とチームワークで、過去1年間で2人の方を看取ることができた。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の関わりにおいて、職員は入居者のプライドを傷つけないよう、言葉遣いや声かけなど気をつけて対応している。また、入居者との接し方や個人情報の取り扱いなどはミーティングで話し合っている。介護記録などはフロアに置いており、入居者の安全確保のためフロアで記入しているが、重要な書類は鍵のかかる棚に保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく過ごしてもらえよう、日々のスケジュールは、大まかに決めているが、入居者の体調や希望に合わせることを基本にしている。起床や就寝も本人のペースに合わせて、ホームの行事への参加の声かけはするが、無理強いはいしないよう配慮している。飲酒希望は無いが、愛煙家は場所を決め喫煙している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者に「何が食べたい」と相談しながら職員がたてている。料理の下ごしらえや食器洗いなど入居者と共に行い、一人ずつお盆に配膳された食事と、温かいおしぼりが用意され、職員と一緒に音楽を聴きながら楽しく食事ができる雰囲気づくりを大切にしている。時々、外食ツアーに出かけたり、お寿司を取ったりして食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回(月、水、金)と決まっているが、他の曜日でも希望があれば、いつでも入浴することができる。入浴時間は午前、午後と本人の希望を聞いて、好きな時に入浴している。入浴剤を入れたり、職員と歌を唄ったり、寛いだ気分で入浴できるよう工夫をしている。体重測定は毎週月曜日に行い、健康管理に努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの得意な事や経験を活かせるようできること、できないことを見極めて、役割、楽しみごとを作りだす配慮をしている。四季の行事では、職員と鯉のぼりや兜を作り、フロアや居室に飾り、家庭的な雰囲気づくりをしている。また、誕生会を合同で開催し、ユニット間の良い交流の機会となっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日は入居者の気分や体調に応じて、近くの公園を散歩したり、畑の草取りに出かけたりして、なるべく外に出るよう支援している。一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせ、お小遣いを持って、コンビニ、スーパー、花屋など買い物に出かけたり、喫茶店に行ったりして、可能な限り個別ケアを支援している。年に1回家族参加の遠足や、介護タクシーを利用して水族館などに出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外施錠されていないので、自由に出入りすることができる。居室のベランダへ出る窓は段差があるので、転倒の危険がある一部の入居者には、家族の了解を得て少ししか開かないようになっている。しかし、ほとんどの入居者は自分で自由に開けることができる。地域のコンビニや派出所にホームの入居者を見かけたら、声かけや連絡をしてくれるようお願いしている。また、運営推進会議でもお願いしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回火災報知器や避難用具の点検時に避難訓練を行っている。地域の消防団長が今年から運営推進会議のメンバーに加わった。災害に備えての食料は缶詰や日々の食材(1週間分)、飲料水はホーム近くに地域の貯水槽があるので準備はしていない。		定期的に避難訓練を行っているが消防署、消防団、地域の方などの協力を得られるような体制を築かれることを期待したい。また、いつ起こるかわからない災害に備えて、食料などホーム独自で準備されることも期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの1日の食事摂取量と水分摂取量を介護記録に記入することで、入居者の状態を把握して職員は必要な支援を行っている。個々の好みに合わせて、梅干、ふりかけ、らっきょうなど好きな物を朝食時に出している。苦手な物は形を変えたり(煮魚や焼き魚をフライにする)、別の物を用意して食が進むように工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には食卓用のテーブルと椅子、テレビの近くにソファを配置したり、畳が敷いてある場所があり、寛げる空間となっている。壁には季節を感じる折り紙の鯉のぼりやお花見の写真、手作りカレンダー、入居者一人ひとりの今年の目標などが飾られている。廊下の端や玄関にソファがあり、日光に当たりながら休憩したり、会話を楽しんだりすることができる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のドアに名前の札と自分で塗絵した絵が飾ってある。室内には大きなクローゼットがあり、整理整頓がしやすくなっている。それぞれの好みや馴染みの物(タンス、ベッド、仏壇、植木、ポータブルトイレなど)生活スタイルに合わせて持ち込まれ、家族の写真や手作り作品(お雛様、どんぐり人形、カレンダー)など飾って、それぞれ居心地よく暮らせる工夫をしている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。